

Report

名古屋図書館の利用について

法学部3年 早河 弘毅

図書館の雰囲気がガラリと変わったのは、キャンパスが移転して驚いたことのひとつでした。キャレルデスクはもちろん、壁に設置してある照明もスタイリッシュになり、静かで清潔な印象を受ける、そんな空間になっていたからです。また、旧名古屋図書館では学生の駄弁り場のような感をまぬがれなかったのとは対照的に、メリハリのきいた場所になっていました。

内装も開放感いっぱいのつくりで、「利用したい」という気分にさせてくれます。1Fの新刊棚もとても見やすいうえに手に取りやすく、いい感じです。

なかでも僕がよくお世話になっているのが、1Fのディスカッションルームです。

僕は2012年春学期まで法学サークルの会長をしていました。サークル活動のなかで、特に定例会や勉強会のときこのディスカッションルームを使っていたのですが、非常に便利で使いやすいつ感じました。それだけでなく、現在僕が参加している法科大学院志望の愛大生によるゼミでも、予約ができるディスカッションルーム(1)を使っています。

ディスカッションルームはガラス張りで活動の様子は見えませんが、防音がしっかりしていて周りを気にせずに活動を行うこ

とができます。移動式のホワイトボードがあり、机も自由に動かすことができるので、ディスカッションにプレゼンテーション、また授業を行うことだってできます。

このように、キャンパスの移転に伴って図書館の役割も変容しているというのが僕の実感です。図書館というと、どうしても座学のための場所を連想すると思います。たしかに、それが図書館のメイン部分でもあり、学生としておろそかにできない要素ではあります。ただ、ディスカッションルームを使うことで、ゼミ活動やディスカッションのようなブレインストーミングに図書館を利用することもできます。これからの社会では、単純な情報処理能力や知識にとどまらず、創造性や問題解決能力が重視されていますので、企業や公務員に就職する場合だけでなく、法曹の道に進むにあたっても欠かせない素養を磨く場所であると言えます。

今や図書館は、これらを養う絶好の機関だと強く感じています。一人で集中したいときはもちろん、仲間と切磋琢磨したいときにも図書館の扉を叩いてみれば、みなさんにとって力になってくれることは間違いありません。



ルールを守って積極的に活用しよう!!